

特集1 2014 公開ワークショップ

デジタル・ヒューマニティーズの最前線と経済学史研究

この特集は、平成26年8月25日に開催された公開ワークショップの内容をとりまとめて報告するものである。当日のタイムテーブルは以下の通りである。

1. **講演日時:** 平成26年8月25日(月) 13:00~16:00
2. **講演会場:** 東京大学本郷キャンパス 経済学研究科学術交流棟(小島ホール)1F 第1セミナー室
3. **講演題目:** 【講演1】「人文学におけるクラウドソーシングのインパクト : 国内外のデジタル・ヒューマニティーズの事例を通じて」
永崎研宣(人文情報学研究所主席研究員・東京大学特任准教授)
【講演2】”transScriptorium and Transcribe Bentham : How to succeed with scholarly crowdsourcing”
Professor Philip Schofield, Dr Tim Causer, Dr Kris Grint
(Bentham Project, University College London)

※ワークショップに先立ち、関係者に対して東京大学経済学図書館所蔵の貴重書が保管されている収蔵庫の見学を行った。

本特集では、Professor Philip Schofield, Dr Tim Causer の各氏に依頼して当日の講演内容に基づいた論考を共著としてお寄せいただいた。心より感謝申し上げたい。また当日の記録については、「人文情報学月報 / Digital Humanities Monthly」No.038【前編】に掲載された森脇優紀氏の参加記を転載させていただいた。転載を快諾くださった発行元の永崎研宣氏、著者の森脇氏にこの場を借りて御礼申し上げる。

なお、このワークショップは、日本学術振興会科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究「デジタル資源を活用したA・スミス経済思想の多元的学際的構造分析の新たな試み」(課題番号:26590031, 代表者:小野塚知二・東京大学・教授)、同・基盤研究(B)「功利主義と公共性:「経済」は人々に「幸福」をもたらすか?」(課題番号:23330067, 代表者:有江大介・横浜国立大学・教授)の主催、東京大学経済学図書館の後援により開催されたものである。



収蔵庫見学の様子



ワークショップの1コマ